

News Letter

神奈川県聴覚障害者福祉センター

きこえ支援情報館

No.6

発行/2021年7月1日 神奈川県聴覚障害者福祉センター補聴相談室 文責 大本純子

第3回コミュニケーション講座

6月12(土)「豊かなコミュニケーションのために」というテーマで、当センター大本がお話させていただきました。コミュニケーションとは、いろいろな手段を通じてお互いの気持ちや考えを伝えあうこと。

伝える手段は「ことば」だけではなく、身振り、姿勢、表情、視線、相手との距離、服装、髪型、声のトーンや声質、匂いなどの非言語的要素もコミュニケーションには大事な要素である。また、コミュニケーションは、話し手の一方向からだけでは正しく伝わらなかったり、受け手によって、違って伝わったりすることがある。受け手側も理解していないことをわかったふりをせず、きき返す。きき返し方にも工夫は必要。何が「分かって」、何が「分からない」かを伝える。自分の認識が

補聴相談室から

自分の声ってこんな声!!

例えば、録音された自分の声を聞くと、自分の声ではないように感じることはありませんか？それは、以下のような理由があります。音の伝わり方は二経路あります。耳から入った音は、外耳道を通り鼓膜に達し、耳小骨という小さい骨で音が大きくなり、耳の奥（内耳）に伝わります。これを気導音と呼びます。一方、音は、頭蓋骨を通じて直接、内耳に伝わります。これを骨導音と呼びます。自分の声は、この二つの経路からの音を聞いています。録音された声は、気導音だけですので、自分がいつも聞いている声とは違って聞こえるのです。初めて、補聴器を装用した大抵の方が、「自分の声」が「大きい」とか「変に聞こえる」などとおっしゃいます。ご自分の声はいちばん補聴器に近い大きな音なのです。補聴器をつけた時に「変に聞こえる」のは、上の理由とは違いますが、今まで、裸耳で聞いていたのと、補聴器という機械を通じて聞くのでは、違った音になるのですね。



今年は会えるかな!!

合っているのか確認することが大事。「(自分はこう思ったけど)これで合ってる?」と確認してみると食い違いを避けられるかもしれません。話題が変わる時には、その転換を示すことば、「ところで・・・」「話は変わるけど・・・」と言うと、話についていきやすい。受け手側も話題が何かを知って聞くことが大事です。



第4回コミュニケーション講座のご案内

日時7月10日(土)10:00～12:00

テーマ:手話入門(1)

講師:神難聴 古川実利氏



<https://forms.gle/EigqN5HaSSDXCRTx8>

にアクセスするか、上のQRコードでも申込できます。

電話(0466)27-1911/FAX(0466)27-1225

メール soudan@kanagawa-wad.jp 担当 大本

第1回難聴者サロン

6月6日(日)難聴者サロンを開催しました。難聴者サロンとしては、初めて、会場とオンラインの併用開催でした。併せて15人のご参加。初参加の方が5名いらっしゃいました。自己紹介が意外と時間がかかってしまい、自由に話せる時間が少なくなりましたが、共有できる話は多かったと思います。

人工内耳に関心がある方が多いという印象を持ちました。参加者の勝谷紀子さんの人工内耳術、術後のリハビリについてのサイト「人工内耳手術日記」があります。

関心ある方はアクセスしてみてください。



<https://sites.google.com/site/norikokatsuya/%E4>

[%BA%BA%E5%B7%A5%E5%86%85%E8%80%B3](https://sites.google.com/site/norikokatsuya/%E4%E5%B7%A5%E5%86%85%E8%80%B3)

この難聴者サロンをきっかけに交流の輪がひろがると思います。